

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2011年
12月9日(金)
第53号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

「新システム」の先取りの状況？ 認証保育所、子ども・職員 48 人の食材 週 2 万円？！

12月1日の署名提出行動の院内集会で、都内のある株式会社立の認証保育所の驚くべき実態が告発されました。「新システム」は、保育を市場化し、株式会社の大量参入を図るとともに、事業所に対する都道府県や市町村の指導・監督を大きく後退させます。この事例は、まさに「新システム」導入がもたらす保育園の先行きを示しているのではないのでしょうか。

私とその認証保育所に勤めていたのは2年前でした。知り合いに頼まれ、前任の施設長が突然辞めてしまって困っているの、どうしてもきてくれないかとのことでした。

その保育所の子どもの数は0歳児9人、1歳児12人、2歳児8人、3歳児4人、4・5歳児4人の計37人。保育所の規模は一応その用途専用建てられたようですが、ごく狭い、ウナギの寝床状の細長いスペースを3つに仕切っただけのものでした。入り口を入ってすぐのスペースは、受け入れや食事の際に使われ、中央は1歳児から5歳児、一番奥は0歳児のスペースになります。

当然、どこもかしこも常に余裕はなく、噛みつき、けんか等のトラブルが絶えず、あまりの噛みつきのに怒った親同士がけんかになり、訴える、訴えないの話にもなりました。

入園料2万円、保育料5万円、土曜保育を含むであったため、他園に比べ安いとの判断で子どもは次々と集まり、キャンセル待ちが常に30人ぐらいたったものの、その内容はひどく、特に食事はこれを食べさせてよいのか？と常に悩んでおりました。

調理師とは名ばかりの70歳代の男性が事業主から1週間2万円を預かり、子ども37人と職員11人分の食材の買い出し、仕込み、調理、洗い物の全てを担当しておりました。その2万円の中には食器洗いの洗剤も含まれ、当然何もかも足りる訳もなく使用する食材などのコストを下げざるを得ませんでした。

食材は主に100円ショップや安いスーパーの中国産、韓国産、その他外国産のものばかりでした。お米は近くのディスカウントショップの10kg1500円位の古米が混ざっているようなものを使用していました。

食器洗剤をそのまま使うとすぐ無くなってしまうため、何倍にも薄めて使うので、油污れ等が落ちず、食器は常にベタベタでした。あまりにも不衛生なためキッチンと洗ってほしい旨を伝えると、「事業主からこのように言われているのでこれ以上できない」との回答でした。

遊具もマクドナルドのおまけやUFOキャッチャーのぬいぐるみ、誰かにももらったかゴミ捨て場から拾ってきたような、半分壊れたものばかりでした。ちゃんと遊具を買ってほしいと伝えると、「そんな余分なお金はない」と突っぱねられましたが、実際は帳簿を二重にし、浮いたお金を次の新園のための資金にとプールしていたのです。

ゴミのような遊具を奪い合い、キッチンと遊具で遊ぶこともままならず、狭い部屋の中のトラブル

を避けるためには、外に出て遊ぶしかありませんでした。一応狭いながらも「園庭」がありましたが、一日中日が当たらない上に、周囲をぐるり一般住宅に囲まれていたので、園庭に出るやいなや、子どもたちの遊ぶ声ですぐクレームの電話が鳴るので遊ぶことが出来ませんでした。

仕方なく、毎日徒歩 10 分ほどの公園に、暑い日も寒い日も、毎日総出で出かけました。クラス毎に分割して、などをするには職員の手が足りなかったのです。

職員は施設長 1 人、正規職員 5 人、パート職員 4 人で、月曜日から土曜日の朝 7 時から夜 8 時までを回していました。表向きは 9 時間拘束の 8 時間労働ということでしたが、毎日人手不足や事務のため残業は当たり前でした。また毎日ぎりぎりの体制を組んでいるので、具合が悪くても休みを取る許可がなかなか出ませんでした。

ノロウイルスが大流行の時も、感染している職員を熱がないからという理由で出勤させ、その職員はトイレに駆け込みながら保育にあたらなければなりませんでした。

そういった数々のひどい状況をどうにかしたい思いで、区役所の保育課に相談しました。何度も視察に来てくださり、事業主に話してくれたり、調理室の状況も見て保健所が入ったりして指導がなされ、いついつまでに改善を、との要請があっても事業主はまったく応じませんでした。調査中に、職員の就労状況が労働基準法に反していることも知り、労働基準監督署に話をしてもらったり、区役所の方から東京都福祉局に話が行き、何度も監査が入ったり、何度も話し合いを重ねました。

その後、区と都が話し合い、一時期はつぶす方向で話が進みかけたようですが、そこまでひどくとも、一度廃園してしまうと、そこに現在通う 37 人の子ども達の次の受け入れ先を探すことが難しいこと、現時点での待機児童の多さ故、一つの園を無くしてしまうリスクの方が高いとのことなどから、引き続き指導には入るが、つぶすには至らず、との結論に達したとのことでした。

私はその時点で、心身のバランスを崩し、限界を感じたため退職しました。残してきた子ども達、職員には今でも申し訳ない気持ちで一杯です。

現在は認可保育園にて、きちんとした職場で、きちんとした仕事をする事ができ、本当に幸せに感じています。

預かる子ども達や保護者に責任をもって保育することができる、きちんとした環境を提供することは、本当に幸せだと思つとともに、今まさに色々なことを吸収し成長することも達の、原点を育む一端を担う保育園は、人的にも、物的にも健全な環境でなければならないと強く感じました。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。配信希望者は氏名と所属、「保育闘争委ニュース希望」と明記し、パソコンよりメールでお申し込みを。内容を圧縮した「携帯メールニュース」は携帯からメールでお申し込みを】